

神奈川県立子ども医療センターオレンジクラブ



## ボランティアニュース

204号 2020年10月号

発行 神奈川県立子ども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦興

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

### オレンジクラブマルシェから

オレンジクラブ代表・患者図書室ボランティア 三木美雪

コロナウイルス感染症がまだ収束が見えない中、オレンジクラブの活動も数々の制約を受けて継続しています。以前は、ボランティアの皆さんが集まり、笑い声にあふれ活気あるボランティアルームも、今は、感染防止に取り組み、密にならない様、大声を出さぬよう気をつけての活動です。久しぶりに、馴染みの顔のボランティアさんを見かけたときは、ほっとして、うれしい気持ちになります。With コロナの時期、患者さんとそのご家族のためにどのような活動が、望ましいのか試行錯誤を重ね、加藤コーディネーターと話し合い、センター感染制御室からもご意見を伺い、慎重に活動を進めています。外来でおこ様に大人気の折り紙も透明ケースに入れ、おこさんが直接手に触れない様に気をつけてボランティアさんが直接手渡ししています。お気に入りの折り紙を受け取った、おこさんの嬉しそうな笑顔に励まされての活動です。コロナウイルス感染拡大時期、患者図書室も一時閉室になりました。患者図書室前に置いていた人気のオレンジクラブマルシェも3月以降販売ができずしばらくカーテンを閉めたままでした。安全面からもカーテンを閉ざしたまま患者図書室前に置いておくわけにもいかず、4月に入りマルシェを管理棟4階図書室に移動する事に決めました。

マルシェの中には、手作り作品の髪飾りやマスク等

写真下は、縫製さんが作っている中心静脈カテーテル専用のスタイ裏にカテーテルが入るようにポケットがついています。



オレンジクラブマルシェには、こども医療センター小児がんの家族会 CLOVER の会のご家族のご要望を受けて、縫製グルーが製作している中心静脈カテーテル専用のスタイが置いてあります。中心静脈カテーテル専用のスタイは、既製品を手軽に購入する事は難しく、ご家族が手作りする必要があります。急な入院でお忙しい患者さんご家族がまとめて購入されています。中心静脈カテーテル専用スタイは、マルシェで購入できていたので、コロナ感染拡大の状況下ではどの様にしたらご家族に手にしていただけるかと思案していました。

その時思いがけず、いつも患者図書室の運営がうまくできるよう我々図書ボランティアを支えてくださる図書館司書の渡辺真希子さんから「図書室の入口前に置いてみたら、私たちが、中心静脈カテーテル専用スタイ販売のお手伝いできますよ。」と声をかけていただきました。本来ならば患者図書ボランティアが責任を持って管理しなくてはいけないのですが、コロナ感染症拡大の状況下、患者図書ボランティアも一時的に活動自粛をしていましたのでしばらくマルシェも再開できないとあきらめていました。この状況下快くマルシェ販売に協力していただき、渡辺さんにとっても感謝しています。ボランティアを応援してくださるお気持ちが胸に伝わってきて感激しました。日頃から私たちの活動を理解し見守ってくださっているからです。マルシェが開いているお陰で中心静脈カテーテル専用スタイも引き続き患者さんご家族に途切れることなく御購入していただけています。

今年度は、残念ですがバザーも中止となってしまいました。マルシェワゴンには、バザーで大好評の手作りグループ製作の、エプロン、甚平、巾着袋や手提げ袋、アームカバーなどの品があります。どれも人気の品々です。患者図書室月曜日担当で、ダウン症の障害をお持ちのボランティア望月咲江さんも現在はコロナウイルス感染症の影響で患者図書室での活動は見合わせていますが、自宅で腹ペコ青虫の折り紙を作り活動しています。咲江さんのお母様が、腹ペコ青虫を届けてくださっています。大人用、おこさん用のかわいい柄のマスクも大好評です。中心静脈カテーテル専用スタイを購入していただく目的でマルシェを開けましたが、相乗効果で、オレンジクラブのボランティアさんの品も皆様の目に留まりました。渡辺さんからの情報で、心の病棟に入院されている患者さんが、お小遣いを片手に楽しそうにマルシェに来てくださるそうです。以前は、患者図書室前にマルシェがありましたので、こころの病棟からは距離がありなかなか訪れられなかったのでしょうか。センター職員の方々も手作りマスク、折り紙の腹ペコ青虫、ヘアピン、エプロン、甚平等々沢山お買い上げいただきました。ありがとうございます。オレンジクラブマルシェを図書室入口前に置くことができ、以前は患者図書室前のマルシェにお見えにならなかった方々の目に触れる事が出来て、更に渡辺さんからの貴重な情報を得て、今回患者図書室ボランティアにとっても新しい発見がありました。コロナウイルス感染症の中で何かとマイナス思考になってしまいますが、こちらは、プラスの成果です。2月15日から9月28日までマルシェの売上は、33,850円になりました。このお金は、すべてオレンジクラブに寄付され、患者様の為に大切に使用させていただきます。

9月からは、患者図書室が開いている月、水、金曜日11時から14時までは、マルシェを患者図書室前に、火、木曜日は、図書室入口に置いています。図書室スタッフ岩本絵里子さんもマルシェの販売をサポートしてくださっています。「いろいろな製品を見るのが楽しみ、どれもとてもよくできていて可愛い」とおしゃってくださいました。以前のスタッフの龍田あつこさんも「今度こども医療センターに戻ってくる時は、是非オレンジクラブに入会させて下さい。」と嬉しいメッセージを伝えてくださいました。オレンジクラブは、多くの方々に支えられ活動が出来ている事を改めて感じました。マルシェのワゴンには、渡辺さん手作りの可愛いピン留めもあります。なんと大人気で完売しました。オレンジクラブマルシェワゴンの手作りの品をご寄付いただいたボランティアさん、ありが

とうございます。With コロナの中でもボランティア活動が継続でき、少しでも、皆様のお役に立つ事ができれば嬉しいです。

この度オレンジクラブマルシェをお手伝い下さっている図書室渡辺真希子さん、岩本絵里子さん、龍田あつこさんにオレンジクラブ一同、心から御礼申し上げます。ありがとうございます。これからも、どうぞオレンジクラブをよろしく願いいたします。

医師の会の先生方、ご寄付ありがとうございます。

オレンジクラブ代表 三木美雪



9月28日月曜日に、医師の会の先生方からオレンジクラブへ10万円のご寄付をいただきました。毎年本当にありがとうございます。医師の会の先生方が、オレンジクラブを応援してくださるお気持ちに感謝いたします。本年度は、こども医療センターもコロナウイルス感染症の為、今までとは全く異なる態勢になり、先生方のご苦勞も増してご多忙になられていらっしゃる事とお察ししています。医師の会の先生方に敬意を表します。

今回は、医師の会を代表して整形外科の中村直行先生から手渡していただきました。整形外科の診察室で、中村先生と一緒に写真撮影をさせていただきました。整形外科の診察室は優しい太陽の光が差し込み、大きな窓からは雲が流れてゆく様子がうかがえます。診察にいらしたおこさんも明るい日差しの下、中村先生と診察室で治療されている様子を想像し、ゆったりとしたお気持ちになれるのではと感じました。オレンジクラブでは、先生方からいただいたご寄付で、病棟内で使用できるiPadの購入を検討しています。こどもさんが笑顔になれる様、これからもオレンジクラブ一同活動に励みます。医師の会の先生方もどうかお身体を大切に、益々ご活躍ください。

### 9月の活動を写真で紹介



園芸活動での正面玄関のお花。



ホスピタルクラウンクリーン病棟で窓越しでパフォーマンス。



3密避けて広い場所での作業活動



右の写真はきょうだいお預かりで活動している田中美奈さんです。現在きょうだい預かりの活動はありません。「夏休みにお声かけ頂き、毎月第一木曜日の午後に総合待合でピアノを弾いています。その時節に合った童謡等ですが、こんな時代ですので最後はいつも『未来へ』を弾いています。今日は弾き終わった後に、お子さんが『きらきら星』を弾きたいというので一緒に弾きました。皆さんが少しでも気持ちが和み、希望が持てるような選曲を心掛けています。」と話されていました。

## ぽぽんたトピック㊦

きくちゃん

病棟の本の貸し出しは（9月23日）で2回目だ。

前回経験者4名と初めての人1名計5名で、貸し出しと回収業務が行われた。

手順が分かっている、緊張感も少し取れたせい、作業時間は短縮されたようだ。

作業後、それぞれ病棟での情報交換をする。今回気付いた事は手洗いだった。

今まで病棟でのおはなし会は入室して、まず手洗いをした。

これは習慣になっていたはずなのに、貸し出し業務に神経が集中していて、すっかり抜けてしまった。

手洗いは大事なのに、、、、。今回初めて参加の仲間に指摘された。

気付いてくれてありがとう。

- 貸し出し冊数をもっと増やしてほしい。
- 読み物より絵本の割合を多くしてほしい。
- 漫画を入れてほしい等、リクエストが有り

病棟の子ども達が本の貸し出しに関心を見せてくれたのは嬉しい事だ。

期待に応えたい。

この情報交換には加藤コーディネーターが参加してくれる。これからはインフルエンザの流行に備えて、早めの予防接種を受けてほしいと言われた。

センターでの集団接種日を待つまでもあるまい。接種日があるかどうか分からないが???

3密を避けての早めの接種を心がけよう。



## お知らせ

10月5日(月曜日)ボランティア研修会

11月9日(月曜日)ボランティア調整会議 (Webex 会議を予定しています。)

12月のチャリティーバザーは中止します。